鉄道高架事業問題の早期決着

鉄道高架事業の早期決着を

殿岡　修

問 多くの市民は、鉄道高架事業の停滞状況が長期に及ぶことを望んでいないと考えるが、市長発議による住民投票の実施により、市民に直接意見を問う考えは。

答 **市長**／沼津のまちづくりについては、責任のある立場の議員や市長が決めるべきものであり、鉄道高架事業だけを取り上げて、住民投票により市民にその意向を伺うことは適切でないと考える。

問 鉄道高架事業により、本市をどのようなまちにするのか。

答 **沼津駅周辺整備事務局長**／第四次総合計画において、沼津駅周辺と大岡、金岡、片浜、第四地区等でとり囲む生活基盤が整う区域を都市的居住圏と位置づけ、都市的サービスを享受できる便利な居住空間の創出を目指すとしている。都市的居住圏の中心となる沼津駅周辺地区においては、県東部地域の拠点都市にふさわしい高次都市機能の集積を図るとともに、鉄道高架事業を初めとする沼津駅周辺総合整備事業を進めることにより、駅南北地区の一体化及び回遊性の向上、建物更新により都心居住の再整備を行い、それを支えるための都市的機能等の導入を図っていく。

地域活性化

新たな戸田地区過疎地域自立促進計画の策定は

水口　淳

問 戸田地区過疎地域自立促進計画に掲げられた事業のうち、未着手となっている事業の数は。

答 **企画部長**／計画に掲げられている四十七事業のうち、平成二十六年度末時点で、十三事業が用地確保に時間を要していることや、整備手法について地元の同意が得られないことから未着手となっている。

問 新たな戸田地区過疎地域自立促進計画の策定予定は。

答 **企画部長**／次期計画の策定については、まずは、現計画の評価や社会動向の分析を行うとともに、地域の意見を伺うこととしており、現在は戸田地区の全世帯を対象としたアンケート調査を実施しているところである。今後、アンケート調査の分析結果と、七月から九月にかけて開催するまちづくり委員会の意見を踏まえ、九月末までに新計画の案を作成し、県との協議、パブリックコメントを行った後、平成二十八年二月定例会に議案として提出する予定である。今後も戸田地区が持つ自然や歴史、文化などの魅力をさらに高め、安全・安心で生き生き暮らせる地域となるよう、生活環境や都市基盤の整備等に取り組み、戸田地区の振興を図っていく。

支援員等の早急な対応

教育現場における支援員等のさらなる拡充を

霞　恵介

問 本市における、①いきいき学校生活応援スタッフ②心の教室相談員③情緒障害学級介助員の学校現場への配置状況と今後のさらなる拡充に対する考えは。

答 **教育長**／①いきいき学校生活応援スタッフは、通常学級において集団生活に適応することが難しい児童に個別支援を行ったり、悩みや不安を抱えた児童の話を聞いたりすることで、児童が安心して学校生活を送ることができる環境を提供することを目的とし、小学校二十四校に三十名を配置している。②心の教室相談員は、生徒が悩みを相談しながらみずから問題を解決したり、不登校傾向から、学級復帰を目指すことなどを目的とし、中学校十八校に十八名を配置している。③情緒障害学級介助員は、児童生徒の突発的な行動への対応や個に応じた指導を行うことを目的とし、小学校五校に六名、中学校三校に三名を配置している。また、支援員等のさらなる拡充については、各学校の規模や、状況に合わせて、効果的かつ効率的に配置するように努めているところであり、今後においても、各学校の状況をよりきめ細やかに把握し、支援員等の適切な配置について検討していく。

自転車の安全対策

交差点における歩行者と自転車の安全対策は

梶　泰久

問 自転車が交差点を横断するためのルールが交差点ごとの環境によって異なり、わかりにくい状況にあるが、安全確保、違反防止のための取り組みは。

答 **企画部長**／自転車通学の多い高等学校の生徒指導担当教員による研究協議会や沼津市高校生自転車マナー向上委員会、関係機関等の協力のもと、交差点での街頭指導を行っている。また、自転車の安全な通行を促すための表示等についても、関係機関等と情報交換を重ねながら研究していきたいと考えている。

問 歩車分離式信号の交差点は歩行者と自転車の接触事故の発生リスクが高いとされているが、本市における安全確保策は。

答 **企画部長**／道路交通法においては、自転車が横断歩道や歩道を通行する場合は、歩行者を優先しなければならないとされており、本市では歩行者の安全確保策として、交通安全運動や、自転車マナー向上キャンペーン指導強化の日などにおける街頭指導のほか、各幼稚園、保育園、小中学校や高等学校、あるいは、各自治会や老人会等において開催する交通安全教室を通じて、歩行者優先のルールの徹底を図っていく。